

# 世界の生命農学の拠点に

日本で初めて設立された私立の農学校であり、農学を専門に扱う日本で唯一の大学である東京農大。1891年（明治24年）3月6日、東京市麹町区（現・千代田区）の飯田河岸に東京農大の原点・徳川育英会育英農科が設立されてから125年周年を迎えた。長い年月の間、日本の農業をはじめ、さまざまな分野や地域、また、国内だけでなく世界の各地で大きな功績を刻んできた東京農大の教育・研究。輝かしい歴史に「世界の生命農学の拠点」を目指した新たな頁が加えられていく。

## 学校法人東京農業大学理事長 大澤貫寿



東京農大は、学祖・榎本武揚の建学精神「冒険は最良の師である」とのもと、初代学長・横井時敬の「稲のことは稲に聞け」の実学教育を旨とし、多くの有為な人材を世界に輩出し続け、125周年を迎えることができた。戦後最大の東日本大震災（2011年3月11日）に際しては、建学の使命のもと、被災農林地再生を最優先課題と考え、全学協力による東日本大震災プロジェクト研究を立ち上げ、福島県相馬市で復旧支援活動に取り組んだ。農地再生に成果を上げ、復興のモデルとして社会から高い評価を得た。

質の高い教育研究機関として、改革に取り組んできたが、今後も、少子化時代に対応した学部改革、新学部設置が計画されている。これからの東京農大は、国際的な教育機関として、その機能を高め、世界の生命農学の拠点大学として飛躍すべく、教育・研究の充実と環境の整備に努めていく。

## 東京農業大学125年の歩み

- 1891(明24) 徳川育英会私立育英農科を設置、管理長に榎本武揚
- 1893(明26) 私立東京農学校と改称、校主に榎本武揚
- 1897(明30) 大日本農会の附属となり、横井時敬が教頭となる
- 1911(明44) 専門学校令による私立東京農業大学と改称し、横井時敬が初代学長となる
- 1925(大14) 大学令による東京農業大学となり、農学部農学科、予科を設置
- 1946(昭21) 渋谷常盤松から世田谷キャンパスに移転
- 1949(昭24) 学校教育法による新制大学となる
- 1950(昭25) 東京農業大学短期大学開設
- 1953(昭28) 東京農業大学大学院農学研究科開設
- 1962(昭37) 厚木農場開設
- 1984(昭59) 総合研究所開設
- 1989(平元) 東京農業大学生物産学部を網走市に開設
- 1990(平2) 東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部に名称変更
- 1991(平3) 東京農業大学創立100周年記念式典挙行
- 1998(平10) 学部改組（農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部の4学部）に改組
- 1998(平10) 東京農業大学厚木キャンパスを厚木市に開設、農学部が移転
- 2016(平28) 学部改組（生命科学部、地域創成科学科、国際食農科学科／2017年4月開設予定、設置認可申請中）東京農業大学創立125周年を迎える

## 東京農業大学学長 高野克己



創立125年を迎えた今、東京農大は、創立150年、200年と未来に向けて進化し続けなければならない。そのためには、社会の変化を見据え、社会と人々の期待に応えるために、生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域創成をキーワードにして学びの領域や仕組みを含めた大胆な改革を確実に実現していく必要がある。

人類の英知により自然の恵みを享受し、現代は高度に複雑化した社会に発展した一方、地球規模の環境変化、食料危機、経済格差など人類の生存を脅かす課題に直面している。こうした課題を解決するのは東京農大の使命であり、この使命を果たすのは未来を創る学生たちだ。「生命(いのち)」に関わる学問を学ぶ東京農大生に「農のこころ」を育み「生きるを支える」教育を行っていききたい。「農学には社会を変える力がある」——その事実と世界の人々の期待を真正面から受け止め、東京農大をさらなる進化へと導きたい。

## 東京農業大学 125年史

2001年に刊行された「東京農業大学 110年史」を基礎として、1991年4月から2015年3月までの資料（大学行事や大学院・学部・学科の構成やカリキュラム構成の推移、スポーツでの活躍など）を中心に編集されている。本文前の口絵には、最近建てられた施設「農大アカデミアセンター（2013年11月）」「1号館（2011年7月）」「常盤松学生会館（2008年9月）」「桜丘アリーナ（2006年2月）」（世田谷キャンパス）、「学生会館（2015年10月）」「第2講義棟（2006年3月）」（厚木キャンパス）、「臨海研究センター（2006年4月）」「11号館（同）」（オホーツクキャンパス）を中心に最新の3キャンパスの姿をカラー写真で紹介している。

東京農大は、これまでに「50年史」「70周年史」「80周年略史」「90周年略史」「100年史」「110年史」を刊行しており、「125年史」は7刊目。

